

第7回 日独通訳者養成セミナー プロトコル
2018年2月26日(月) 3日目(最終日) (一部のみ)

▪ **逐次通訳の練習**

(1) 相澤先生とW先生による模擬討論会

テーマは「資本主義 vs 共産主義」

希望者が独>日、日>独に設けられた通訳者席でブロックごとに逐次通訳

(2) 逐次通訳で気付いた点を最後にまとめてフィードバック／討議

(プロトコルはこの途中から)

① 一般的な注意点

- 討論会やパネルディスカッションで、今回のように各発言者／パネラーに一人ずつ通訳が付くことはまずない。
 - 対応に困ったときは、“自分のクライアントは誰か”を意識し、臨機応変に対応する。
- 緊張している場合でも、敬語の使い方に注意。
- 日本語の「涙ぐましい」や「恨みがましい」といった、ニュアンスの訳出が難しい。
- 通訳中に討論相手が割り込んできた場合の対処は？
 - 割り込みの発言を通訳すると、そこからまた議論が始まり、元の訳を終えられず、收拾がつかなくなる恐れがある。
 - 一方で、話者の心情としては訳して(または反応して)欲しい。
 - 「(訳出が)まだ終わっていません」、「後からお伝えします」などと一声かけたうえで最後まで訳し終える、無視する、少しでもあれば対応する、など臨機応変に対応する(“自分のクライアントは誰か”を意識)。
- 苦手な単語や知らない表現が出てくると気になって、その後の聞き取りやメモ取りに影響することがあるので注意。
 - 外国語や専門用語など、分からない語句が出てきたら逐次の場合には必ず話者に質問すること。曖昧にしておく、その後の話題で件の語句が重要になった場合などに困る。
 - 通訳で語句の選定が的確でなく、その語句に対して討論相手が反応した場合など、可能であれば、「先ほどXXXといったのは実は…」と修正しても良い。
 - パワポなどの資料を使った発言：
 - メモだけを見て訳すのではなく、訳者も資料に聴衆の注意を促し、理解しやすい訳を心掛ける。

- 通訳する時点で、パワポが先に進んでしまっている場合は、話者に対応するページに戻ってもらうようお願いする。難しい場合(話者がパワポを操作しておらず、別の場所に技術者がいるなど)にも、「XX 枚前のスライドで…」などと資料に言及する。
- パワポに書いてある内容でも必ずメモを取る。取らないと良い訳ができない。
- 議題のキーワードや紛らわしい用語は(準備ができる場合)、しっかり押さえておく(今回は「資本主義」と「共産主義」の取り違えが多々見られた)。
- 通訳が討論相手に向かって話すのか聴衆に向かって話すのかはケースバイケース(どちらも見る)。
- 意味のあるジェスチャーは多いに取り入れ、話者の意図を伝える手助けとして活用すべき(やり過ぎには注意)。

② 訳出／訳語の選定に関するコメント

- うらみ: 「Hass」は不適切。「Groll」や「Ressentiment」。
- 左翼: 「翼」には批判のニュアンスがある。中立的に訳するのであれば「左派」が適切。
- Wir Kapitalisten: 使わない。別の言い回しで。
- イデオロギー: 「独語の『Ideologie』よりもニュアンスが強すぎるので、『思想』とするべきではないか?」と言うコメントがあったが、今日のテーマでは「イデオロギー」が適切との意見が多数を占めた。
- Internationalismus: 「国際化」は間違い。「国際主義」または「国際協調主義」(文脈に応じて)。
- Revolution in 1959: 「革命」が「改革」と訳されていた。要注意。
 - Período especial en tiempo de paz: 訳出漏れ(西語。キューバの“平和時の非常時”)。

③ 今回の授業形式に対する意見、反省点など

- 相澤先生: W 先生の討論スタイルに賛辞。
プロ通訳者を例に、自分が発言者になり切ってパワポなどを駆使するという通訳スタイルもある、とご紹介された。
 - W 先生: 話者としては、Uさんの通訳が話者と通訳に一体感があって一番満足している(言いたかったことが伝わった)。M さんの通訳はとても筋が通っていて良かった。
 - 大変良い練習だが、準備ができないため、普段より品質が劣ってしまう。

- 次回は 3 日目の準備もやれるようにテーマや形式を事前に告知してもらえれば、全員が参加できるのではないかと？（今回は、限られた参加者が数回通訳をした）。
 - 訳出一文一文に対するフィードバックではなく、態度、視線の向き、困ったときの対応など、実践に即したフィードバックが得られるので非常に役立つ。
 - 討論会という形を取るならば、次回は司会を入れてはどうか？
- 指導陣からセミナー全体のまとめ・感想、次回予定など

相澤先生

- 参加して下さった指導陣・講師陣に感謝の意。
- どこに重点をおいて学ぶべきかなど、今回学んだことを今後の勉強に生かし、情報交換の場としても十分に活用して欲しい。
- セミナーを今後も続けられるかどうかは不明。外務省から参加している 3 人をはじめ、参加者全員がセミナーの意義を伝えるなどして、広報活動を支援して欲しい。
- ハイデルベルク大学で作成中の「用語 DIC」を公開できるレベルにまで整備し、通訳者間で知識を共有できる公開用語集を作りたい。まずは今回の単語リストを、Google Docs を使って参加者全員で作成・共有するところから始めたい。
- 次回セミナーの開催時期、開催可否の決定時期などは未定であるが、例年は概ね以下の通り：
 - 開催は 2 月
 - 開催の可否は 4 月～5 月に決定
 - 日程は 2 泊 3 日
 - 参加費等を含め大きな変更あれば連絡
- 充実の 2 日間。一通訳者として参加するつもりが、結局、指導役になってしまった。
- 老若男女、様々な地域から通訳者や通訳を勉強する人々が集まり、横のつながりを強化できる、とても良いイベントだと思う。
- 今まで日程が合わず、今回初めての参加。今後はもっと参加したい。
- レベルも高く、参加者全員とても勉強になったのではないかと思う。

= 以上 =